

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>当ホームが理念として掲げる「自立・信頼・笑顔」は、地域社会の一員として生活を営むことで、より一層培われるものと考え。</p>	<p>家族の意向やプライバシー保護を十分に考慮しながら、なお一層の地域資源と入居者との関わりを強めて生きたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>全職員参加のミーティングにおいて、活発な議論の末生み出された理念であり、すべての職員がその理念を理解し、実現に向けて取り組んでいる。</p>	<p>日常業務の慌しさに、ともすれば頭から抜け落ちそうになりがちではあるが、業務に迷いが生じたときなど理念に立ち返るよう、管理者がミーティング等で職員に語りかけている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>入居者が地域で執り行われる行事や会合に参加したり、発行している広報に暮らしの様子を掲載することなどで、ホーム活動の理解が根付くよう努めている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>近隣の、特に入居者の家族、友人はふらりと訪ねてこられることも多く歓迎して招き入れている。また地元の祭りや敬老会には毎年欠かさず参加し、入居者が古くからの知人と旧交を温めると共に、スタッフも中に加わり、思い出話などを伺っている。</p>	<p>入居者のADL状況や認知症度が年々重度化していく中で、職員一人ひとりにかかる負担が増していくこととなり、地域における活動がなかなか難しい状況となってきた。今後は普及活動とまでは行かないまでも、交流の機会を増やして認知症の理解を深めるよう努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>権利擁護事業については、一部のスタッフが把握しているにとどまっているので、広くスタッフ間に浸透するよう、勉強会やミーティング等で取り上げていきたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職は、他事業所と比較して極めて少なく、入居者とスタッフは家族のように、馴染んでいる。</p>		<p>異動に関しては、ユニットの活性化と両ユニットすべての入居者を把握して欲しいという思いから、定期的に行っている。</p>
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修や講習の案内があれば、極力参加する方向で勤務調整を行っているほか、本年実績として行政や協力病院に依頼して口腔ケアや関節稼動域の講義を受けている。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県や地域の同業者で組織する協議会に入会し、情報や意見の交換を行っているほか、行政の主催するケア会議にも参加し、地域の各事業所の活動やサービスに触れ、運営の参考とさせて頂いている。</p>		<p>開設当初は、他のグループホーム見学を何度か行っていたが、こしばらくは滞っているのでまた行いたいと考えている。</p>
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>入居者とスタッフが一緒に楽しめるようなレクリエーションや慰問を頻回に催し、慰安としている。また、スタッフとコミュニケーションをとるよう努めることで、悩みや不満を察知できるよう心がけている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>役職、経験、能力を把握した上で、臆見せず、偏見も持たず常にニュートラルな位置取りをしながら、評価が正当なものになるよう心がけることで、やる気が喚起されるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>25 本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族に対しては、必要に応じて相談を持ちかけ、スタッフが対応に判断しかねるときには、一緒に考えて頂き、結論を導くようにしている。</p>		
<p>26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>複雑な家庭環境であったり、家族との縁が薄い人など、様々な家族関係を有する人の集合体であるため、入居者と家族との関係に対する対応はそれぞれの入居者によって分かれるが、基本は協力していただくこと、面会に来ていただくことを旨としている。</p>		
<p>27 馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居者の希望に対しては、可能な限り叶うよう努めており、行きたいところ、逢いたい人に関しては、家族とも相談しながら実現するよう努めている。</p>		
<p>28 利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>入居者同士の関係を配慮しながら、しかし引き離すことはせず、後に起こるかもしれない不測の事態も考慮しながら、共同の作業や余暇活動を行い、よい関係作りが出来るよう支援している。</p>		
<p>29 関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>退居される理由は様々であるが、いずれにしても次に利用される場所の担当者には、状態や性格或いは生活全般についてなるべく正確に認識していただくよう努め、環境変化に対してのストレスが極力軽減されるよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「27」でも述べたが、入居者の要望に対しては可能な限り実現するよう努めている。また、意思表示の困難な方に対しては、動作や表情を参考に、これまでの傾向を考慮してその思いに届くよう努力している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>主として契約時に家族から詳細に生活歴を伺い、また本人からもこれまでの人生の生き様をうかがって、なじみの品を用意して頂いたり、ライフスタイルを継続できるよう配慮して対応している。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>蒐集した情報とともに実際の過ごし方を勘案して、日々の記録されたカルテをもとに現状を把握し、ケアプラン等に活かしている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者を中心として、月に一度話し合いの場を設け、利用者本位の介護計画を作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>昨年より管理者、計画作成担当者の変更が相次いだ為、見直しが出来ない期間があったが、変化に対しては的確な対応策を取り決め、徹底するよう努めた。</p>	<p>異動も落ち着き、今後は定期的なプランの見直しを行うよう申し合わせている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子やケアについては、個人記録や連絡ノートに詳細に記録するとともに、職員間で申し送るなど情報伝達に漏れがないよう努めている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>要望に対しては、可能なものであれば承ってから実行するまで、迅速に対応できるような体制を整えている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>警察や消防署、また地域の消防団とは折に触れて、主として防災の面で確認を取り合っている。</p>		<p>民生委員やボランティアとは、なかなか交流する機会を作れていないのが現状。入居者に、より豊かな日常を送って頂くためにも、交流を深めるよう積極的に働きかけたい。</p>
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>入居前に担当していたケアマネジャーとは、入居後も連絡を取り合い、相談にのっていただいている。また協力病院や主治医にも、適切なアドバイスを頂いている。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターが主催する、地域ケア会議に定期的に参加し、他事業所の担当者も交えて情報交換をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは、常に密接な関係を保ち、居宅療養管理指導を利用し、入居者個々の状態を報告して、適切な措置を講じて頂いており、本人やご家族の方も安心感を得られているように思う。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院には、認知症の専門医は居ないが、必要に応じて専門医を紹介して頂ける態勢はとっている。		今後は、より早期に治療が受けられるような態勢を、協力病院や家族とも相談しながら進めて生きたい。
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当荘の常勤(兼務)の看護師と、協力病院の窓口となっている看護師が密接に連絡を取り合い、入居者個々の医療の問題に対応している。また、介護スタッフは個々の入居者の健康面に異常が認められた場合は、直ちに看護師に報告し、指示を仰ぐための体制を、24時間とっている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院に関しては、常に医療機関と連絡を取りながら、早期の退院と、退院後のケアについて話し合っており、退院後の受け入れも支障なくスムーズに対応できるよう努めている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期或いは重度化した場合のあり方については、予め家族と申し合わせており、その内容はある程度スタッフにも周知しているが、現実となった場合は、再度主治医と家族を交えて協議することとしている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来ることと出来ないことについては、すでに内部において申し合わせており、家族や医療機関にもご理解いただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>受け入れ先の担当者に十分な面談の機会を設け、当荘からは可能な限りの情報を提供し、受け入れ先の体制を確認した上で送り出しており、ダメージ防止に努めている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ミーティングや学習委員会等で、気になる点は議題として取り上げ討議しているほか、普段においても気づいた点があれば、職員間で注意しあっている。</p>		
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者と職員との日常のコミュニケーションの中で、頻繁に思いや望みを引き出すような会話を心がけている。意思疎通困難な者に対しても、語り掛けを絶やさず行い、その表情や仕草から思いの一端を探り出す努力をしている。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>特別な事情のない限りは、入居者のペースを優先し、柔軟に業務の流れをあわせている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみについては、本人の趣味、嗜好を充分考慮して助言、選択している。理美容については、月に一度理容師が来荘して理髪するほか、古くからの行きつけの店を希望される方には、希望に沿って対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については、管理栄養士が立てたものに沿って つくっている。調理については、野菜の皮むきをお願 いしたり、味付けを教えるなどお願いしている。ま た食器並べや食器拭きも入居者にお願いをしている。		以前行っていた、入居者の希望を伺い、月に一度 職員が献立を考えるという作業を復活できればと考 えている。
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、 好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常 的に楽しめるよう支援している	医師からの指示、家族の意思も考慮しながら、なる べく本人の意向に沿った嗜好の場を提供している。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひ とりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気 持ちよく排泄できるよう支援している	人員の問題もあり、現在はきめられた時間に誘導して いる状態。		尿意のない人、排泄の意思を表せない人等増えてき ているので、個々のパターンの把握に努めスタッフ共 有のものとして対処していきたい。
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援している	入浴は、ほぼ毎日行っており、回数や時間帯につい ても、可能な限り希望に沿えるよう配慮している。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応 じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう 支援している	本人の希望を優先して対応している。また、体調不 良時などは、臥床して休息をとってもらおう働きかけ ている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の、出来ること、出来ないこと、やりたい こと、嫌なこと把握し、散歩、運動、手作業などの余暇 活動を支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の少額のお金は、極力本人に持たせいただき、管理する力の低下を防ぐよう努めている。また商店などでの買い物の際には、能力の有する方には、自ら支払いして頂くよう努めている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	人員の関係もあり、日常的には行かないが、買い物やスケッチなど希望する場所に、日時を決めて出向いている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見、お祭り、町の敬老会、さくらんぼ狩り、大型商業施設等レクリエーションの一環として外出の機会を設けてるほか、個々の希望にも極力沿うように努めている。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、充分支援してきている。手紙については、スタッフが代理で書く場合が多いが、本人が送りたい希望があれば勿論支援していく。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来荘の際は、歓待してお迎えし、居室等でゆっくりくつろいで頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に、自分の健康を損なう行為、他者に迷惑を及ぼす行為を除き、言動は自由というスタンスで対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は鍵をかけていなかったが、無断離所による事故があったのを期に、施錠の状態が続いている。		安全を優先的に考えて、現在の状態が続いているが、スタッフの誰もが今のままでよいとは思っていないので、いつの日か必ず施錠は解きたい。
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフがホールに最低一人は居るように努め、所在を把握し転倒などの事故や、入居者同士の争いが拡大しないよう心がけている。また、失禁など秘めておきたいことに対しては、トイレや居室で介助するなど配慮して対応している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、調理器具、大工道具、裁縫道具等は目に触れない場所に保管している。但し本人持参で、管理能力のある方は、裁縫道具や果物ナイフなどを自主管理していただいている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故や、ヒヤリハットの発生時には、報告書を作成し全職員に通知の上、確認を示す捺印を義務付けている。		個々の事例について、深く掘り下げて検証する場が必要と思われる。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを作成し、すべての職員が訓練を受けている。		定期的には行われていないため、忘れてしまっている面もあると思われるので、確認の意味においても再訓練は必要かと思う。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年消防署立会いの下、消防訓練を実施しているほか、地域の消防団にも依頼し、いざというときに備えている。		開設以来6年半、幸いにして火事や地震による災害は受けずに経過してきたが、川の氾濫の警報を受け、これまでに3度、近くの公民館に避難した経験を持つ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		<p>目的や用法の内容は理解しても、勝手な判断で調整しないよう、申し合わせている。</p>
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		<p>義歯使用の方には、週に一度、入れ歯洗浄剤で消毒して頂いている。</p>
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症については、予防マニュアルを作成しており、また関連の研修が催されれば、極力スタッフを派遣し、理解が深まるよう努めている。		内部勉強会やミーティングにおいても、折に触れて議題として取り上げてもある。
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材については、買いためはせず、提携している業者より新鮮なものを仕入れている。また調理器具は、定期的に洗浄消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭の周囲に花を植えたり、毎年6月に行うプランターの花植えで出来た作品を、玄関の周囲に飾ったりしている。		玄関前の庭は面会者や取引業者の駐車場を兼ねており、また早朝には入居者の散歩場所にもなるため、余分なものを設置せずにきているが、まだ工夫の余地はあると思う。
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には月ごとにカレンダーを貼っている他、季節が感じられるものを飾るなど、工夫を施している。日差しはブラインドで調節し、掃除機の音も、なるべく影響のない時間帯に行っている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、畳座敷、ソファと入居者同士思い思いの場所で寛いでおられる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者の意見を聞きながら、ベッドや箆笥の位置を決めているほか、原則として持ち込みは自由としており、なじみの衣類や装飾品を持参されている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気は定期的に行い、室温も常に気を配っている。また、その日の気象状況に配慮して、衣服調節も支援している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>床面は、玄関から内部に至るまでほぼ段差なしに作られている。またホールの壁、トイレ、浴室には手すりが施され、使用者に安心感を与えている。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレや浴室は、暖簾や表示札を下げ、わかるよう工夫している。居室も本人がわかるような印をドアに貼るなどして対応している。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ホールが広いという特性を活かして、慰問を招く機会を数多く設け、時には一緒に歌ったり踊ったりする空間として利用できている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

絶えずコミュニケーションをとることを主として考え、そこから得られる思いや望み、不満などから次につながるサービスの向上を召さしている。また潤いのある日常を過ごして頂くために、ショッピング、お祭り見物、お花見等の外出や歌や踊りの慰問を数多く招いたり、日常の余暇活動にも力を入れている。入居が長期になるに従い、どうしてもADL 低下や認知症の重度化は避けられないが、可能な限りこの姿勢は保って生きたいと思う。